

(参考) 麻しん(はしか)とは

1 麻しんとは

麻しんは、麻しんウイルスによる感染症であり、感染症法上の五類感染症です。

2015年には世界保健機関西太平洋事務局(WPRO)より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の麻疹の発生は輸入症例を端とするものとなります。

世界でも、麻しんの排除(elimination)に向けて、予防接種率の向上等の麻しん対策が強化されていますが、途上国では、いまだに5歳以下の子どもの主な死亡原因となっています。

2 原因と感染経路

病原体は、麻しんウイルス(measles virus)です。

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から発疹消失後4日くらいまでとされています。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻しんに対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染ではなく、全て発症します。典型的には、約10~12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2~4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻しん含有ワクチン接種です。

予防接種法に基づく定期予防接種が計2回(1回目:1歳~2歳未満 2回目:小学校入学前の1年間)行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いします。

令和6年度接種率 第1期(1歳児): 94.5%

第2期(小学校就学前の1年間): 90.4%

(参考) 都内における麻しん患者発生状況

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
東京都	23	124	2	0	0	10	10	34
全国	279	744	10	6	6	28	45	261

※東京都の2025年は12月28日までの届出数

※全国の2025年は第50週(2025年12月8日~12月14日)までの累積速報値